## 鎌倉からの史 内乱時代の本覚尼

山口勝行(24期 国際)

12歳で嫁いだものの夫を殺されて尼となり、後半生は菩提供養に 費やした女性がいます。鎌倉幕府3代将軍・源実朝の正妻(名は末詳)

ると、出家して本覚を名乗り、しばらくして帰京しました。永久の乱(承久3年:



鎌倉幕府

で貴族の坊門家の生まれです。坊門家の父・信清の 姉殖子と高倉院の間に生まれた皇子が即位し、後鳥 羽天皇となりました。この頃から台頭した幼い実朝 が将軍に擁立されると、彼女は公武融和の象徴とし



て京から鎌倉に嫁ぎます。花見に出かけるなど、夫婦は仲よく子は無くとも実朝は生涯、側室をも ちませんでした。朝幕関係と考えてのことであろう。建保7年(1219年)、実朝が公暁の刃に倒れ



3 代将軍源頼朝

1221年)の際には、京方について、兄の 助命を嘆願し、斬道を免れさせていま す。その後、自邸の寂殿と本堂とし遍照

心院(現在の大通寺)と称すると、北条 政子は所領を寄進して経済的に本覚尼

永久の乱

を支えました。同院は将軍家の祈禱寺であり、修行僧は彼女を頼って仏道修行に励んだという。



こうした日々は我が子を抱くことがなかった本 覚尼の心をいやしたのではなかろうか。彼女は文永 11年 (1274年) 9月82歳の生涯を終えるが、翌月 にはモンゴル襲来(文永の役)で再び多くの血が流

れようとしていました。「人間の無常はいくばくか眼にさえぎるお りにふるゝあわれごとに、身をかへりみるおもいふかし」 内乱の時代を生き抜いた本覚尼が、人生を振り返って述べた一文です。



モンゴル襲来

## 令和5年度中川鯱城会総会のご案内

会長 新田文代

いつも中川鯱城会にご協力いただき有り難うございます。 令和5年度中川鯱城会総会を以 下の日程で開催したいと思います。 例年であれば総会終了後、会員の皆様との面識を深め懇 親会予定するところですが現在コロナ禍の中見送りさせていただき、総会のみといたします。 会場の3密をさけるために出席いただける方に対して、登録制とさせていただきます。何かと ご不便をお掛け致しますがご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

- 日時 令和5年4月12日(水) 10:00~12:00 1
- 場所 中川生涯学習センター 中川区富川町1丁目2-12 **8** 052-362-3883
- ご出席いただける方は、下記にご連絡ください。
  - 32 期 白草大三
- □ 090 -3838-2509
- 32 期 山田忠男
- □ 080-3629-3630

